令和３年　１２月　２３日

令和３年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和３年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和3年5月27日（木）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　１３人

②　算数　　１２人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

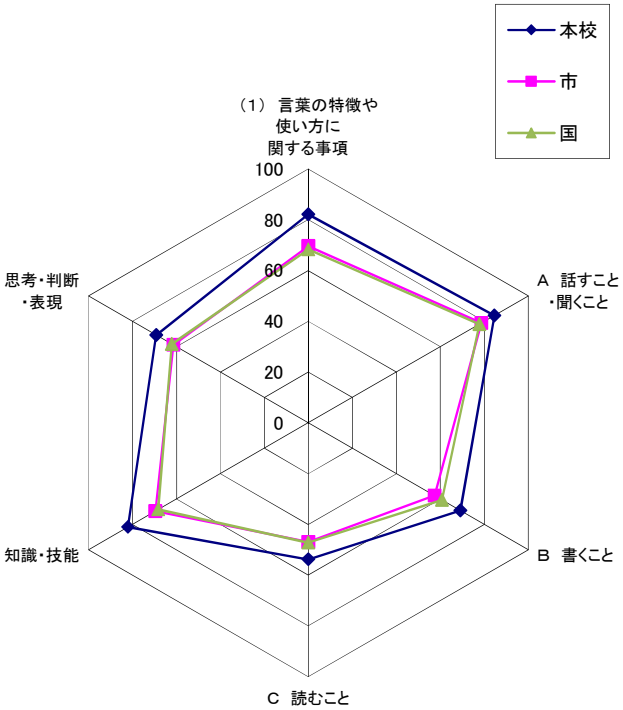
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	82.1	69.6	68.3
	（2） 情報の扱い方に関する事項			
	（3） 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと･聞くこと	84.6	78.7	77.8
	B 書くこと	69.2	57.3	60.7
	C 読むこと	53.8	46.9	47.2
観点	知識･技能	82.1	69.6	68.3
	思考･判断･表現	69.2	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

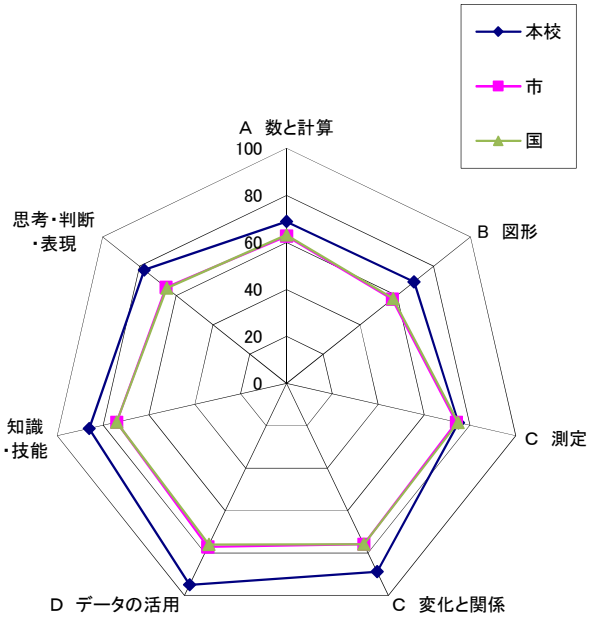
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，82.1%と県･全国平均を大きく上回っている。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う設問では県･全国平均を大きく上回り，正答率100%の問題もあった。 ●文の中における修飾と被修飾との関係を捉える設問では，61.5%と県･全国平均を大きく上回っているもののそれほど正答率が高いとは言えない。	･漢字の読み書きについては，今後も小テストなどを通して繰り返し練習させる。 ･作文指導の中においては漢字を使うことを徹底する。 ･図書室を利用する際にことわざや故事成語に関する本などを紹介して，慣れ親しむとともに，例文づくりをしたり，時と場に応じて当てはめたりして理解を深めていく。 ･AIドリルを活用し個人の課題に応じた学習を今後も継続して行う。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は，84.6%と県･全国平均を上回っている。 ○目的に応じ話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える設問では，正答率が92.3%と県･全国平均を大きく上回った。 ●資料を用いた目的を理解する設問では，正答率が76.9%と県･全国平均と同程度であり，正答率を上げることが課題である。	･会話科や総合的な学習の時間など他教科との関連を図りながら，話合い活動を充実させ，全員が司会の役割を経験する機会を今後も設けていく。 ･総合的な学習の時間などと関連させ，ボランティアの先生へのインタビューで，話し手の意図を捉えながら話を聞いたり，質問したりできるよう指導の充実を図るようにする。 ･ICTを活用しスライドを使用したプレゼンテーションを授業の中で取り入れていく。
B 書くこと	平均正答率は，69.2%と県･全国平均を上回ってはいる。 ○目的や意図に応じて理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する設問では，平均正答率が69.2%と県･全国平均をやや上回った。 ●自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考える設問では，平均正答率が69.2%と県･全国平均と同程度だった。	･各教科で自分の考えを書く活動を充実させてきているが，今後も他教科他領域とも関連付けながらグラフや表などを用いて言語活動を行わせたり，情報を分析させ，それをもとに記述させるなどの指導を充実させるようにする。 ･書くための言語力を身に付けさせるため，読書活動にも力を入れていく。
C 読むこと	平均正答率は，53.8%と県･全国平均を上回っている。 ○文章全体の構成を捉え，内容の中心となる事柄を把握する設問では，平均正答率では84.6%であり，県･全国平均をやや上回った。 ●目的に応じ，文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける設問や，目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約する設問では，平均正答率が県･全国平均を大きく上回っているが38.5%と低い。	･読書好きな児童が多いので，今後も読書活動を奨励すると共に読むジャンルの幅を広げていくように働きかけ，人物の心情を読み取ったり情景描写を味わったりする機会を設け，物語文での読み取りの力も育てていく。 ･説明文や解説文，新聞のコラムなどを読む機会が少ないため，こうした読み物資料も意図的に提供して，様々な表現の工夫に触れさせる機会を作る。 ･言語活動を通して着目点を明確にし，情報の読み取りを行わせる。

宇都宮市立城山西小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	68.8	62.6	63.1
	B　図形	69.4	57.5	57.9
	C　測定	75.0	74.1	74.8
	C　変化と関係	88.9	75.8	75.9
	D　データの活用	95.0	77.1	76.0
観点	知識・技能	86.1	74.1	74.1
	思考・判断・表現	77.4	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	平均正答率は，68.8%で県・全国平均を上回った。 ○商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で，場面から数量の関係を促えて除法の式に表し，計算をする設問では，県と全国の平均を大きく上回った。 ●二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び，その求め方と答えを記述する設問では，県・全国平均を下回った。	・道のりの差の求め方と答えの書き方を誤答している児童が見られることから，「道のりときょり」の確認をしてから取り組む機会を意図的に入れていき，正しく使って計算できるようにしていく。 ・「小数を用いた倍数について説明を解釈し，ほかの数値の場合に適用して，基準量を1としたときに比較量が示された小数にあたる理由を記述する」を苦手としている児童が見られることから，授業の中で，数値の変換に注意して立式したりすることを丁寧に確認していくようにする。
B　図形	平均正答率は69.4%で，県・全国平均を大きく上回った。 ○直角三角形の面積を求める式と答えを書く設問では，県・全国平均を大きく上回った。 ●二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く設問では，県・全国平均を大きく上回っているが，正答率は低くなっている。	・基本的な問題では正答率が高いことから，習熟が図れていると考えられる。今後も補充プリント等を活用して技能が身につくようにする。 ・発展的な問題や記述を要する問題では，正答率が低くなっている。単一の図形を用いた学習だけでなく，公式を導くまでの活動で，既習の図形との関わりを考える機会を多くもつことで，図形についての見方や考え方を使えるようにする。
C　測定	平均正答率は，75.0%で，県・全国平均と同程度だった。 ●2つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く，記述式の設問では，正答率が，県・全国平均をやや下回った。 ○時刻と時間に関する設問や直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ設問では，正答率が，県・全国平均をやや上回った。	・発展的な問題や記述を要する問題においては，正答率が低くなっていることから，より身近な問題や具体的な場面について，それまで学習したことと生かして考えさせる機会を設けるようにする。 ・基礎的な問題の正答率は高いことから，今後も補充プリントを活用して習熟を図っていくようにする。
C　変化と関係	平均正答率は，88.9%で，県・全国平均より大きく上回った。 ○速さを求める式を書く設問では，正答率が100%で，県・全国平均を大きく上回った。また，それぞれの式の意味について，正しいものを選ぶ設問でも，正答率が75%で，県・全国平均を非常に大きく上回った。	・全体として正答率は高いことから，習熟を図れていると考えられる。そこで，今後もさらに習熟を図っていけるように，問題に対する答えの理由を式や文章で根拠を明確にして記述できるように投げ掛けていく。 ・一人一人が課題をしっかり把握し，じっくり考えられるように，高学年では引き続き少人数指導を行っていく。
D　データの活用	平均正答率は，95%で，県・全国平均を大きく上回った。 ○どの設問でも県・全国平均を上回っている。特に，帯グラフから，割合の違いが，一番大きい項目を選び，その項目と割合を書く設問では，県・全国平均と比べ，30%以上も上回った。	・資料の特徴や傾向を読み取る力が高いことから，今後も様々な資料に触れる機会をもつとともに，そこからどんな情報が得られるかなどを考える場面を設定することで，資料を読み取る力をより高めていけるようにする。 ・「帯グラフで表された複数のデータを比較し，示された特徴をもった項目とその割合を記述できる」ことを苦手としている児童が見られることから，資料の特徴や傾向だけを読み取る基礎的な力だけではなく，発展的な問題に取り組ませることで，具体的なデータを基に比較・検討していく中で，必要な情報を得ることができるようにしていく。

宇都宮市立城山西小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「自分でやると決めたことは，やり遂げるようにしていますか。」の設問において，肯定割合が100%で，県・全国平均を大きく上回った。目標をしっかりと掲げ，それに向かって取り組む姿勢が培われてきたと思われる。
○「自分にはよいところがあると思いますか。」の設問において，肯定割合が81.3%で，県・全国平均と同程度だった。だが，以前はあまり自己肯定感が高くはなかった傾向が見られたことから，上向きになってきたと考えられる。反面，自己肯定感が低い児童の割合は18.8%もいる。引き続き，一人一人のよさを発揮できるよう場を設けたり，できたことに対して褒めて伸ばしたりしていく。
○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の設問において，肯定割合が93.8%で，県・全国平均を大きく上回った。学年が上がり，学習に対する意欲の向上の表れと思われる。今後も自主学習への取り組み方を学級内で紹介するなどし，互いに参考にしていきながら取り組みが深まるように支援していく。
○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。」の設問において，肯定割合が81.3%で，県・全国平均を大きく上回った。日ごろから，新聞やニュースを見たりする児童が多く，関心の高さがうかがえる。また，日頃からの地域・保護者との連携の結果，地域への愛着心が育まれていると考えられる。
○「学級の友達と話し合う活動」の設問では，肯定割合が81.3%で，県・全国平均をやや下回った。だが，互いに話し合ったり，聞き合ったりする姿勢が定着してきたため，学級活動での話合いで互いの意見のよさを生かそうとする肯定割合や，道徳の授業で話し合う活動に取り組んでいる肯定割合がいずれも93.8%と高い評価だった。今後も，話す・聞く姿勢の指導にあたりながら，子どもが主体的に取り組んでいけるようにする。
●「毎日，同じくらいの時刻に起きていますか。」の設問では，肯定割合が87.6%で，県・全国平均を下回った。また，同じ時刻に寝られていなかったり，朝起きられていなかったりするため，朝食を食べてこない児童もおり，生活のリズムが整っていない傾向が見られる。家庭科や保健体育の授業で，自身の生活を振り返る機会をもたせたり，養護教諭と連携を図ったりして，規則正しい生活習慣が身に付けられるように継続してはたらきかけていく。

宇都宮市立城山西小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習指導の工夫改善	・授業における効果的な導入や発問の工夫 ・児童に学習課題をはっきり理解させ，見通しをもって課題にじっくり取り組ませる授業展開の工夫 ・授業終末または単元末の振り返り活動において，学んだことや考えたことを的確に表現する機会の充実 ・既習事項や他教科の学習・実生活との関わりを意識した学習の実施	・国語科における，基礎的な知識・技能や，言語事項はとてもよく身に付いていた。しかし，それらの基礎的な事項を活用して自分の考えを表現したり，資料を通して重要な事柄を読み取ったりすることに課題が見られた。 ・算数科においても，すべての分類・区分において県・全国平均を上回っていた。しかし，記述式の設問や，活用問題においては平均正答率の低いものも散見された。
読書活動の充実	・「読書量 宇都宮一」を目指した，全校での取り組み ・学級図書の設置および定期的な本の入れ替え ・朝の読書の時間の確保 ・読書記録の実施 ・校内読書週間の実施	・読書に関する設問において，個人によりばらつきがあるものの，本を読む時間は県・全国平均を上回った。パソコンやインターネットでの調べ学習よりも図書資料を活用して調べるという傾向が見られた。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
どちらの教科においても基礎的事項は大変良く身に付いていることが分かった。他の設問に比べて，記述式の設問や活用問題において，正答率が低い傾向が見られたた。	・関わりを通した学びに重点を置き，学習活動を進めていく。	・教科間および，単元どうしのつながりを指導者も学習者も十分意識し，学習に取り組めるよう，授業内容の改善を図る。 ・学習したこと同士のつながりや，学習内容と日常生活とのつながりを意識できるよう，授業の導入で見通しを立てさせたり，単元末の振返りにおいて関連付けながら考えられるように支援したりしていく。